

初年次大学生の文献検索行動に関する調査

(2012年度～2014年度)

—OPAC検索におけるキーワード指定方法を手がかりとして—

Research on the Literature Search for the First Year
Students : A Focus on OPAC Keywords (2012-2014)

山 口 真 也

1. はじめに・本研究の問題意識

筆者は、勤務する沖縄国際大学総合文化学部日本文化学科にて、1年生向けの必修科目「人文情報基礎」を担当してきた。この科目は、キータッチの練習に始まり、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト、学内ネットワークの使い方等、アカデミックスキルとして必要となる基礎的なICTの修得を目指す科目として位置づけられている。2013年度からは、日本文化学科のカリキュラムの変更に伴い、科目名を「文化情報処理入門」と変更したが、使用するソフトウェアのバージョンに違いはあるものの、ほぼ同内容の科目である。

本学には、上記の学科必修科目以外にも、「情報処理基礎」という共通科目が開設されており、日本文化学科の学生も受講することができる。この共通科目は、ICTの基礎を身につけるという点では、「人文情報基礎」または「文化情報処理入門」と重なる部分が多い。ただし、筆者の専門が「図書館情報学」であることを生かし、通常のICTをテーマとする講義に加えて、レポート作成や研究発表で必要となるアカデミックスキルの1つとして、図書館機能を活用した文献検索法のレクチャーも積極的に取り入れるようにしている。また、日本文化学科のカリキュラム上の特徴の1つとして、卒業論文の執筆を卒業要件（必修科目）としているにもかかわらず¹、卒業研究に向けて専門的な調査を始める3年生になっても、基本的な文献検索方法を習得していないという問題が以前から学科の専任教員内でたびたび指摘されてい

¹ 沖縄国際大学には4学部10学科が設けられており、その内、卒業論文の執筆が必修科目として学部学生に課せられているのは、日本文化学科を含めて5学科だけである。(2015年3月現在)

たこともあり、各ゼミナールで個別に行われていた指導を筆者が引き受けて、本授業に取り入れたという経緯もある。

本レクチャーを取り入れた授業は2011年度の授業から実施しているのだが、初年次学生の文献検索の様子を見てみると、パターン化された問題点がいくつかあるように感じられた。2012年度からはそのパターンを明らかにし、今後の指導に活かすべく、アンケート調査を実施している。本稿ではその結果を紹介しつつ、多くの大学で実施されている初年次の大学生向けの文献検索指導法の課題を考察してみたい。

2. アンケート調査の実施方法

2012年度に開講した「人文情報基礎」は前期開講科目であり、4月～8月上旬の期間に開講されていた。文献検索方法の指導についても本来であればこの期間に実施すべきだが、別の必修科目である「基礎演習Ⅱ」（後期開講、2013年度からは「リテラシー入門Ⅱ」に科目名称変更）でグループ、または個人による研究発表が取り入れられる時期に合わせた方が学習効果がより高まると考えて、2012年10月14日（日）に、1年生全体を学籍番号順に2つのクラスに分けて、前半グループは1・2時間目の時間帯（9時～12時10分）、後半グループは3・4時間目（13時～16時10分）の時間帯を使って開催した。2013年度からは本科目が後期開講科目（9月末～2月上旬）となったため、通常の授業の第4回、第5回目を充てることとした。それぞれの年度の調査実施日は、2013年10月24日（木）と31日（木）、2014年10月23日（木）と30日（木）である。いずれの年度も、授業は1・2時間目（9時00分～12時10分）に行った。

本研究において実施したアンケート調査は2種類ある。まず、文献の検索方法についての説明を始める前に、資料1の用紙（アンケート調査1）を配布して、どのようなキーワードを使ってOPACを検索しているか、ということを確認している。資料2の用紙（アンケート調査2）はガイダンス終了後に配布して、当日の説明内容を事前に知っていたか、さらに、普段のレポート作成等でどのような情報源（または図書館機能）を使っているか等を確認している。各年度の回答数とアンケートの回答率（休学者を除く1年生全体に占める割合）は次の表1の通りである。

表 1 アンケート調査の回答状況

年度	アンケート調査 1	アンケート調査 2
2014年度	126名 (95.5%)	126名 (95.5%)
2013年度	112名 (84.8%)	113名 (85.6%)
2012年度	132名 (97.8%)	132名 (97.8%)

表 1 に示した通り、2012年度は、2 回（90分）の授業を同日に（2 回続けて）実施しているため、授業の冒頭で行ったアンケート 1 と、授業後に行ったアンケート 2 の回答状況は同数となる。2013年度以降は 2 回（2 週）に分けて授業を実施しているため、回答数と回答者は異なっている²。なお、2013年度以降は、授業時間中にアンケートを実施しているため、前年度に単位を取得できなかった再受講学生も授業に参加し、本アンケートに回答しているが、その中には 2 度目の受講になる学生も含まれていること（＝模範回答を覚えている可能性が高いこと）、本研究における「初年次大学生の文献検索行動の特徴を探る」というテーマに反することから、ここでは初年次の大学生＝1 年生の文献検索行動を分析することを目的とするため、1 年生の回答のみを有効回答として集計している³。

本稿では、文献検索におけるキーワード指定方法を確認した資料 1 のアンケート調査の結果を中心に、分析を進めていきたい。

3. アンケート調査の結果

3.1. 上位キーワードにみる文献検索行動の特徴

資料 1 に示した通り、第一のアンケートでは、レポート等の課題が出た際、テーマに関する情報を収集するために、どのようなキーワードを使って、本学図書館の OPAC (<http://opac.okiu.ac.jp/>) を使用しているかを確認している。学生にはあらかじめ「複数回答可」であることを伝え、回答中は OPAC の使用は禁止した上で、

² 2014年度調査は 1 回目と 2 回目の回答者数が同数となっているが、欠席者が同一ではないため、2013年度調査と同様、それぞれの回の回答者の構成は一部異なっている。

³ 拙著「大学生はなぜ本を探せないのか？ へんなキーワード、NDC の存在、図書館員の不在」（『みんなの図書館』2014年 5 月号、pp. 75-79）で、2012年度と 2013年度の結果を比較しているが、再受講生（2 年生以上）も含めた集計・分析を行っているため、本稿の調査結果とは若干異なる。また、2012年度調査結果分のみ、拙著「大学生の文献検索行動に関する考察—初年次学生を対象とするアンケート調査から」（『九州地区大学図書館協議会誌』第 55 号、pp. 3-7）にて分析している。

思いつくキーワードをアンケート用紙に記入するように指示している。

アンケート調査において取り上げたテーマは「魔女裁判」と「吹抜屋台^{ふきぬきやたい}」の2つである。「吹抜屋台」については、前期に開講された別の必修科目(2012年度までは「日本文化論」、2013年度以降は「日本文化論Ⅰ」)の中で、「源氏物語絵巻」を紹介する際に触れられているのだが、いずれの年度も未記入が多く、詳細な分析が難しかった。本稿では、特徴的な回答が見られた「魔女裁判」について、以下の集計結果をもとに考察してみたい。

表2 初年次学生が指定したキーワード（3人以上が回答したもの）

[2014年度の結果] (n=126)

順位	2013 順位	2012 順位	キーワード	回答者数	比率(%)
1	1	1	魔女裁判（まじょさいばん を含む）	62	49.2
2	2	2	魔女	40	31.7
3	5	4	魔女__裁判	34	27.0
4	3	3	裁判	28	22.2
5	4	5	魔女狩り	17	13.5
6	--	--	魔女裁判__歴史	11	8.7
7	11	--	魔女__歴史	9	7.1
8	9	10	ジャンヌ・ダルク	7	5.6
9	11	--	魔女裁判とは	6	4.8
10	--	--	ヨーロッパ__歴史	5	4.0
11	--	--	魔女裁判__方法	4	3.2
11	--	--	魔女裁判__ヨーロッパ	4	3.2
11	--	--	魔女裁判について	4	3.2
14	--	--	宗教裁判	3	2.4
14	--	10	法律	3	2.4
14	--	--	魔女裁判__国	3	2.4
14	--	--	魔女裁判__西洋	3	2.4

[2013年度の結果] (n=112)

順位	2014 順位	2012 順位	キーワード	回答者数	比率(%)
1	1	1	魔女裁判（まじょさいばん を含む）	71	63.4
2	2	2	魔女（まじょ を含む）	53	47.3
3	4	3	裁判（さいばん を含む）	31	27.7
4	5	5	魔女狩り	18	16.1

5	2	4	魔女__裁判	12	10.7
6	--	6	火あぶり	10	8.9
7	--	6	ヨーロッパ	6	5.4
8	--	9	中世ヨーロッパ	5	4.5
9	8	10	ジャンヌダルク	4	3.6
9	--	--	処刑	4	3.6
11	--	10	キリスト教	3	2.7
11	--	--	西洋__裁判	3	2.7
11	--	--	魔女__火あぶり	3	2.7
11	7	--	魔女__歴史	3	2.7
11	9	--	魔女裁判とは	3	2.7

[2012年度の結果] (n=132)

順位	2014 順位	2013 順位	キーワード	回答者数	比率(%)
1	1	1	魔女裁判	80	60.6
2	2	2	魔女	37	28.0
3	4	3	裁判	23	17.4
4	3	5	魔女__裁判	20	15.2
5	5	4	魔女狩り	9	6.8
6	--	6	火あぶり	5	3.8
6	--	7	ヨーロッパ	5	3.8
6	--	--	(未記入) ⁴	5	3.8
9	--	8	中世ヨーロッパ	4	3.0
10	--	11	キリスト教	3	2.3
10	8	9	ジャンヌ・ダルク	3	2.3
10	14	--	法律	3	2.3

本学図書館のOPACは、2013年度以前は「NTT NALIS Version 1.0.0.0」を使用していた。2014年度からは「Fujitsu iLiswave-J Version 3.0」にリニューアルされ、機能は一部向上したものの、いずれのシステムでも、「魔女裁判」について書かれた図書を探すためには、キーワードのフィールドにそのまま「魔女裁判」と入力しても、「魔女の裁判」「魔女と裁判」などのタイトルが付けられた図書は（目次や件名に「魔女裁判」という文字列がなければ）検索結果には含まれないことになって

⁴ 2012年度の調査ではキーワードを1つも記入していない回答がいくつか見られたため、2013年度からは「魔女裁判」について簡単な説明を口頭でしたうえで回答してもらっている。

しまう。従って、「魔女裁判」のような複合語で構成されるテーマについては、第一に「魔女__裁判」と単語を短く切ってスペースを入れてAND検索を実行するということが有効な検索方法と考えられるのだが、表1に示した通り、いずれの調査年度でも最も多い回答は、「魔女裁判」をそのままキーワードとする方法となっている。模範回答(正答)の1つである「魔女__裁判」を指定できたのは、2014年度調査では34人(27.0%)、2013年度調査で12人(10.7%)、2012年度調査では20人(15.2%)という結果である。OPACを使って文献を検索する場合、キーワードは「単語単位で、できるだけ短くした方がよい」という基本的な検索方法は、初年次学生にはそれほど定着していないようである。

もう1つ、筆者が模範回答として想定していた回答は、「魔女」のみをキーワードとして指定する方法である。本学図書館の蔵書は40万冊を超える規模であるが、西洋史を専攻する学部学科がないため、「魔女」というキーワードだけでも、ヒットする図書は60件程度とそれほど多くない(リニューアル後のシステムの場合)。しかも、「魔女」という語は『基本件名標目表』(第4版, 日本図書館協会, 1999)にも掲載されているため、件名のデータを備えた目録であればさらに検索結果は多くなる。つまり、「審判」「狩り」といった「裁判」の同義語を含めて、より多くのタイトルの図書を探し出すには、あえて「魔女」だけをキーワードとして指定して、検索結果として表示される一覧から必要な図書を探し出すという方法も考えられるのである。しかしながら、「魔女」のみをキーワードとして指定した学生も、2014年度調査では40人(31.7%)、2013年度調査では53人(47.3%)、2012年度調査では37人(28.0%)となっている。2013年度を除いて、3割程度の初年次学生しかそれを指定できないという結果となっており、同義語・類語を連想しやすい語はOPACのキーワードには向かない、ということもそれほど理解されていない様子が読み取れる。

3.2. 下位キーワードにみる文献検索行動の特徴

次の表2は、少数回答(回答者数が「2」以下のキーワード)を集計したものである。アンケート用紙には誤字脱字も見られたが、本表ではそのまま掲載している。

表3 初年次学生が指定したキーワード（2人以下が回答したもの・五十音順）
[2014年度の結果]（n=126）

2名が指定	キリスト教 中世__魔女 魔女__裁かれる 魔女裁判__いつまで 魔女裁判__拷問（ごうもんも含む） 魔女裁判__ジャンヌダルク 魔女裁判__内容 魔女裁判__見つける ヨーロッパ	キリスト教__魔女狩り 中世__ヨーロッパ 火あぶり 魔女__伝説 魔女裁判__火あぶり 魔女裁判__日本 歴史	裁判の種類 魔女裁判__イギリス 魔女裁判__意味 魔女裁判__起源 魔女裁判__罪 魔女裁判__魔女狩り 魔女について
1名のみが指定	悪__裁判 イノケンティウス 欧州__歴史 火刑 ギロチンの歴史近世 国 裁判__歴史 裁判所 裁判について知る 裁判の歴史 差別__裁判 処刑 西洋 西洋__差別 西洋__魔女 西洋史__魔女 世界史__中世 中世__キリスト教__だんがい（裁判） 中世の歴史 中世ヨーロッパ__大量ざくさつ 中世ヨーロッパ__魔女狩り 中世ヨーロッパ__魔女裁判 弁護士など裁判に関係する人がみんな魔女（被告人は一般人） ヘンゼルとグレーテル 魔術__弾圧 魔女__狩り 魔女__裁く 魔女__習慣 魔女__西洋 魔女__火あぶり 魔女__歴史__宗教 魔女会	イギリス__宗教 過去事例__魔女裁判 ヨーロッパの社会事情 裁判__法 裁判員 裁判とは ジャンヌ・ダルク 宗教 女性__裁判 西洋__裁判 西洋__思想 西洋__魔女思想 世界 中世の拷問 中世ヨーロッパ__異端審問 法律__裁判__宗教ホラー 魔女__アンチ 魔女__裁判__宗教 魔女__裁判__処刑 魔女__死刑 魔女__火 魔女__中世 魔女__文化 魔女が裁判	生田斗真 外国の魔女 キリスト教の弾圧 空想 裁判__魔 裁判員制度 裁判と魔女 裁判問題 政治 西洋__裁判__魔女 西洋__はくがい 西洋__歴史__裁判 世界史 中世__出来事 中世ヨーロッパ情勢 火あぶり__西洋 魔女__えん罪 魔女__時代 魔女__宗教 魔女__定義 魔女__ヨーロッパ

	魔女狩り__裁判	魔女狩り__歴史	まじょ裁判
	魔女裁判__イタリア	魔女裁判__疑われる行動	魔女裁判__えん罪
	魔女裁判__外国	魔女裁判__概用	魔女裁判__教会
	魔女裁判__キリスト教	魔女裁判__区別	魔女裁判__刑
	魔女裁判__原因	魔女裁判__研究	魔女裁判__時代背景
	魔女裁判__裁判院制度	魔女裁判__作者名	魔女裁判__死者数
	魔女裁判__ジャンヌ	魔女裁判__宗教	
	魔女裁判__宗教__ヨーロッパ		
	魔女裁判__宗教__ヨーロッパ__ジャンヌダルク		魔女裁判__執刑
	魔女裁判__処刑	魔女裁判__女性	魔女裁判__資料
	魔女裁判__事例	魔女裁判__人物	魔女裁判__男性
	魔女裁判__地域	魔女裁判__中世	魔女裁判__著者名
	魔女裁判__鉄	魔女裁判__図書	魔女裁判__年れい
	魔女裁判__なぜ	魔女裁判__について	魔女裁判__罰
	魔女裁判__火あぶり__宗教		魔女裁判__発端
	魔女裁判__火あぶり__ヨーロッパ		魔女裁判__フランス
	魔女裁判__法	魔女裁判__本	魔女裁判__魔女
	魔女裁判__有名	魔女裁判__ヨーロッパ__歴史__ジャンヌ__刑	
	魔女裁判__理由	魔女裁判__歴史	魔女裁判制度
	魔女裁判とは何か 魔女裁判に関すること		魔女裁判の本
	魔女裁判の歴史	魔女とは	魔女の裁判
	魔女の能力	魔女の歴史	魔女判決
	魔法	水__魔女	妖怪
	ヨーロッパ__裁判 ヨーロッパ__魔女		
	ヨーロッパ__魔女裁判	ヨーロッパ__魔女裁判__国	
	ヨーロッパ歴史__事典	ヨーロッパ歴史__魔女裁判	

[2013年度の結果] (n=112)

2名が指定	悪魔	裁判__女	西洋
	魔女__処刑	魔女__ヨーロッパ 魔女裁判__時代	
	魔女裁判__中世	魔女裁判__内容	魔女裁判__始まり
	魔女裁判__本	魔女裁判__歴史	魔女裁判について
1名のみが指定	アメリカ__ヨーロッパ	イギリス__魔女	イギリス__魔女裁判
	異端審問	女	キリスト
	キリスト教__魔女 裁判__種類		裁判__歴史
	差別	時代	宗教
	宗教__歴史	女性	西洋__伝説
	西洋__中世__火あぶり__魔女		中世
	中世__絵画	中世の宗教	
	中世ヨーロッパ__魔女	犯罪	火あぶりの刑
	法律	魔女__異端	魔女__欧米

魔女__狩り	魔女__規則	魔女__拷問
魔女__裁判__死刑 魔女__裁く		魔女__差別
魔女__死刑	魔女__ジャンヌダルク	魔女__宗教
魔女__人権	魔女__尋問	魔女__西洋
魔女__存在	魔女__中世	魔女__日本
魔女__磔刑	魔女__方法	魔女__法律
魔女裁判__意味	魔女裁判__女	魔女裁判__国
魔女裁判__写真	魔女裁判__ジャンヌダルク	
魔女裁判__資料	魔女裁判__図録	魔女裁判__制度
魔女裁判__西洋	魔女裁判__全世界 魔女裁判__東洋	
魔女裁判__どこ	魔女裁判__人間	魔女裁判__はじめ
魔女裁判__批評	魔女裁判__歴史__本	魔女裁判の犠牲者
魔女裁判の方法	魔女の裁判	魔女の罪と罰
魔女の見分け方	魔女の歴史	魔女を裁く方法
魔法	魔法使い	密教
ヨーロッパ__裁判__魔女	ヨーロッパ__宗教 ヨーロッパ__魔女	
魔女裁判__内容	歴史	

[2012年度の結果] (n=132)

2名が指定	死刑	中世	歴史
1名のみが指定	witch__trial	悪魔__宗教	異教徒
	移住民	異端	
	異たんしんもん (異端審問?)	ウィッチ	英語について
	魔女裁判__原因	作者	宗教
	宗教裁判__キリスト教	女性	女性差別
	真相	心理	先住民
	中世ヨーロッパ__魔女	ドラマ	はくがい (迫害)
	フランス__魔女裁判	フランス革命	文献__魔女裁判の
	魔女__裁判__中世__ヨーロッパ		魔女__宗教
	魔女__歴史	魔女裁判__起源	魔女裁判__刑
	魔女裁判__資料	魔女裁判__著者の名前	魔女裁判__歴史
	魔女裁判について	魔女の迫害	
	ヨーロッパ__文化__裁判	ヨーロッパ__歴史	
	歴史__中世ヨーロッパ__魔女		

これらのキーワード群をながめてみて分かることをいくつか列挙してみよう。まず、初年次学生の意識の中に、「キーワードは1つではなく、2つ以上指定する方がよい検索結果が得られる」といった誤解があるということが挙げられる。上表から分かるように、多数の回答者が1語ではなく、2語以上のキーワードを組み合わせ

せてしまっている。そして、年度ごとの少数回答の数（回答数2以下のキーワード）は、2012年度調査では39個、2013年度では83個、2014年度調査では101個と、増加する傾向も見られる。

キーワードの組み合わせ方にはいくつかのパターンがあるのだが、ここで最も注目したいものが、「魔女」や「魔女裁判」といったメインテーマを示すキーワードの後ろに、具体的に調べたいことを付け加える、ということパターンである。例えば、「魔女」「魔女裁判」に続けて、「原因」「起源」「始まり」「発端」「理由」「歴史」「時代」「時代背景」、「定義」「意味」「内容」、「疑われる行動」「死者数」「人物」、「刑」「罰」「えん罪」「拷問」「差別」「方法」、「写真」「図録」「東洋」「ジャンヌ・ダルク」といった語を追加して、そのテーマについて個人的にもっと深く知りたいことを絞り込もうとしている様子が見られる。

もちろん、目次情報や件名に上記のキーワードが加えられている場合には、検索結果として表示されるだろう。しかし、目次やOPACにそれらが含まれていない図書であっても、「起源」「始まり」「定義」などは魔女裁判の専門書であれば当然書かれていることであり、これらの語をわざわざキーワードに指定する意味は希薄である。反対に、キーワードをいわずらに追加することによって検索結果が減ってしまう可能性の方が濃厚である。とすれば、上記のようなキーワードの追加による絞り込み検索は、OPACではむしろ不要であろう。

ではなぜ「キーワードを複数個入れた方が良い結果が得られる」という誤解が生じてしまっているのだろうか。筆者の個人的な見解になるが、そうした誤解の背景には、「Yahoo! Japan」(<http://www.yahoo.co.jp/>)や「Google」(<https://www.google.co.jp/>)といった検索エンジンの影響があるように思われる。検索エンジンではそのサイトがコンテンツとして含む文字情報を全て検索対象とし、類語・同義語などのシソーラスも参照しつつ、誤字脱字なども正した上で、検索結果をユーザーに返してくれる。その反面、検索結果が膨大になるため、ユーザーは自分が知りたいことについて具体的なキーワードを追加して、検索結果からノイズを減らさなければならない。こうした検索方法に慣れているせいか、同じ方法が、当然図書館のOPACでも使えると考える初年次学生が少なくない比率で存在すると考えられるのである。とすれば、初年次学生を対象とする文献ガイダンスでは、インターネット検索とOPACとでは検索の仕組みが大きく異なることをかなり強く意識づけさせる必要

があるのではないだろうか。

こうした「インターネットの検索エンジンとOPACの混同」という問題は、単に知りたいことを2つ目のキーワードとして追加する(絞り込む)、という文献検索行動だけに表されているだけではない。絞り込むために設定する「検索キーワードは1つだけでなく、複数個あったほうが良い」、もっと言えば、「キーワードは多ければ多いほどよい結果が得られる」と誤解しているケースがあるようにも思われるのである。例えば、「魔女__裁判__中世__ヨーロッパ」「歴史__中世ヨーロッパ__魔女」「魔女裁判__ヨーロッパ__歴史__ジャンヌ__刑」「ヨーロッパ__魔女裁判__国」「魔女裁判__宗教__ヨーロッパ__ジャンヌダルク」「中世__キリスト教__だんがい(裁判)」「西洋__中世__火あぶり__魔女」といった具合に、思いついたキーワードを次々に入力しようとする学生も存在する。回答数そのものは多くはないのだが、調査年度が変わっても一定数存在する事実もあり、こうした誤解の上でOPACを利用する初年次学生が一定数存在するということを、担当者は理解しておく必要があるだろう。

もう1点、知りたいこと・調べたいことを、「単語形式ではなく、問いかける形式にする」という独特の検索行動も、調査年度が新しくなるにつれて顕著になっていることにも言及しておきたい。例えば、「魔女裁判とは」「魔女とは」「魔女裁判とは何か」「魔女裁判に関すること」「魔女裁判について」「裁判について知る」といった、OPACの検索では通常は指定しないキーワードを挙げているケースがいくつか(数は少ないものの)確認できる。キーワードを短く区切ってはいるものの、「魔女裁判__なぜ」という回答も同じようなケースと考えてよいだろう。さらに、問いかけ形式にはなっていないが、「魔女を裁く方法」「魔女を裁く方法」「魔女の見分け方」「魔女裁判の方法」など、知りたいことをそのままフレーズにして検索しようとするケースもこれに近い発想なのではないだろうか。上で筆者は「インターネットの検索エンジンとOPACの混同」という問題点を指摘したが、こうしたキーワードの指定方法からは、初年次学生が、検索エンジンの機能をさらに進化させた、iPhoneの「Siri」やNTTdocomoの「しゃべってコンシェル」をはじめとするスマートフォン(モバイル端末)での音声サービスに近い感覚で、OPACを使おうとしているようにも思われるのである。

3.3. NDCの知識を活用した文献検索方法の理解度

OPACを用いた文献検索方法とは少し異なるが、1冊でも多く、そのキーワードが載っている図書を書架から探そうとするためには、NDCの知識を応用する方法もあるだろう。OPACの検索結果に示された資料の周辺（同じ分類番号の資料）を探すのはもちろんのことだが、その分類番号の1つ上の階層にさかのぼりながら、専門書からより広いテーマを扱った概説書・入門書を探していく方法もある。初年次学生がOPACを調べて図書を探す場合、多くは授業の課題（レポート作成、レジュメ作成）に関連すると思われるが、いたずらに高度な内容の専門書を読むよりも、より分かりやすく概念や出来事の経過をまとめた概説書・入門書を調べた方が効率的に情報を得られる場合もあるからである。例えば、「魔女裁判」の図書探している場合、本学図書館のOPACでは234.05という「ドイツの近代史」の分類番号の本などがヒットするのだが、234（ドイツの歴史）➡ 230（ヨーロッパの歴史）と、十進法に基づいて番号をさか上っていくことで、より分かりやすく解説している図書が見つかることもあるのである。もちろん、「魔女裁判」については、そのテーマについて1冊全体で扱っている図書も複数冊見つかるが、調べたい事柄が1冊全体にまたがるほどのメジャーさがない場合は、キーワード検索だけでは集められる図書の数が少なくなってしまうため、その上位概念にあたる分類番号の図書にも目を通してみる、という方法は初年次学生の文献検索において有効性を増すと考えられる。さらに言えば、ヨーロッパの歴史の本を読むことで、魔女裁判がドイツだけの出来事ではないことが分かると、再び「フランスの歴史」（235）などの下の階層へと調べる範囲が広がっていくこともある。初年次学生が「分かりやすさ」という情報ニーズをもっていることに注目すれば、「ヨーロッパの歴史」から「全世界の歴史」（200）まで分類番号を遡ってみても、世界史的に有名な出来事である魔女裁判のことは書かれているだろうし、200の上位分類である000（を形式区分した030）に該当する「百科事典」を調べても、その概要・歴史を分かりやすくつかむことは可能である。このようなNDCの知識を生かした検索キーワードを指定できた初年次学生はどのくらいいたのだろうか。

ここで改めて表2の結果をみると、2014年度調査での「ヨーロッパ__歴史」（3人、2.4%）や、2013年度調査での「西洋__裁判」（3人、2.7%）がそうした知識を生かした回答であると考えられるだろう。回答数が2以下の結果をまとめた表

3まで広げてみると「裁判__歴史」、「西洋__思想」、「歴史」、「世界史」、「中世の歴史」、「中世__出来事」、「中世ヨーロッパ情勢」「中世の宗教」「宗教__歴史」、「ヨーロッパ__宗教」といったキーワードもそうした発想に基づくものと思われる。もちろん、ここに挙げたすべての回答が実際のOPACでの文献検索において有効なキーワードになる保証はないが、「魔女裁判」というキーワードから、その上位概念として「(中世の) 歴史」または「裁判」というキーワードを引き出すことができるスキルをもつ学生も一定数は存在するようである。

この他にも、1名だけではあるが、2014年度調査において「ヨーロッパ歴史__事典」というキーワードを指定できた初年次学生が存在する。大学でのレポート作成では(特に初年次の学生にとっては)、いきなり難しい専門書を読むのではなく、入門書・概説書を読む方がよい場合も少なくないことはすでに述べたが、その考えをさらに展開させると、より分かりやすい、効率的な情報入手・知識獲得において、「事典」などの参考図書(または百科事典)を使って定義をおさえて基本的な理解を深める、という方法も確かにあるだろう。調査実施時にはこうした回答は想定していなかったものの、大学生向けのOPACの検索方法を指導する上では、模範回答の1つとして取り入れることもできるだろう。

4. 結論・今後の課題

本稿では、初年次学生を対象とした文献検索指導の概要を報告しつつ、その課題を考えるために、2012年度から2014年度の3カ年かけて実施してきた初年次学生の文献検索行動に関するアンケート調査の結果を分析してきた。

繰り返せば、初年次学生の多くは、①キーワードは単語単位で短く切る、②より固有性の高いキーワードを用いる、③キーワードはむやみに増やさない、といった、OPACを用いる上で求められる基本的な文献検索のスキルは十分に身につけてはいない。特に③の傾向は、調査年度が進むにつれて顕著になっていく傾向も確認できる。そして、そうした基本的なスキルが初年次学生に定着していない背景には、インターネット検索やスマートフォンの音声認識サービスに慣れ親しんだ世代だからこそその検索行動の特性があるようにも思われる。これらの結果は、初年次学生の多くが、レポートやレジュメ作成において十分な資料収集ができていない状況を示しているとも考えることができるだろう。

図書館情報学の分野では、「連想検索」や「ディスカバリーサービス」など、次世代OPAC研究も進んでおり、調査結果から見えてきた初年次学生の文献検索行動にみる問題点はいずれ解消されていくだろう。しかしながら、OPACの機能が常に検索エンジンや音声認識サービスの後追いになっている現状をふまえれば、最新のICTに慣れ親しんだ若い世代が、思うように図書館で文献を探し出せない状態は「宿命的」に続いていくとも考えることができる。こうした課題は、OPACを用いた文献検索方法の指導における新たな視点として、担当者が重視すべき大きな課題と言えるのではないだろうか。

本稿では資料に掲げた第一のアンケート調査結果のみを分析したが、初年次学生も含めて大学生が、図書館機能を十分に活用して、多様な文献を検索するようになるためには、1つのテーマに対してOPACや図書館機能を活用してたくさんの資料を集め、それを読み比べていくような学習環境が前提となるはずである。反対に、OPACでたまたま見つかった1冊を読めばそれで十分に完了してしまう（単位が取得できてしまう）ような学習状況に多くの初年次学生が置かれているならば、本稿で紹介したような文献検索のスキルはいくら指導しても定着しないとも考えられるだろう。この点については、文献検索の指導を終えた後に実施した第二のアンケート調査において問題意識として含めていくつかの設問を準備している。本稿での調査結果をふまえつつ、次号において考察をさらに深めていきたい。（2015年9月25日）

■資料１ アンケート用紙⁵（文献検索行動を知るためのアンケート）

授業をはじめる前にまずチャレンジしてみましょう！（裏面はまだ見てはいけません）

あなたは、以下のような２つの課題が「リテラシー入門Ⅱ」などの研究発表形式の授業で出た場合、本学図書館のOPAC(オンライン目録)を使って、どのように文献を集めますか？ 使用するキーワードなどを空欄に自由に記入してください。

＜課題１＞「魔女裁判」について調べない

＜課題２＞「吹抜屋台」について調べない

学籍番号: _____ 氏名: _____

⁵ 2014年度からは提出状況を確認するために、氏名欄を設けているが、回答の正誤は成績評価には含まないことをアンケート開始前に伝えている。

■資料2 アンケート用紙(文献検索方法の理解度・学習状況を知るためのアンケート)

文献検索ガイダンス アンケート

作成: 沖縄国際大学 山口真也

2014年10月30日 実施

■アンケートの目的: このアンケートは、1年生のみなさんのガイダンス前の文献検索に関する知識を知ること、1年生向けの文献検索ガイダンスのプログラムを研究し、来年度以降のガイダンスの内容を検討するために実施するものです。出席の代わりに氏名を記入してもらいますが、分析・研究する際には、個人名部分は切り離しますので、安心して答えて下さい。(成績評価には一切関係ありません)

Q1 今回のガイダンスで取り上げた、以下の用語と、その基本的な機能(使い方)について知っていましたか? ガイダンスの前から知っていたもの(使ったことがあったもの)すべてに、○をつけてください。(複数回答可)

- ① 沖縄国際大学 OPAC ② 百科事典 ③ 索引 ④ ジャパンナレッジ(百科事典のDB)
⑤ 目次 ⑥ 沖縄県内横断検索・Cinii Books ⑦ Webcat Plus の一致検索 ⑧ Webcat Plus の連想検索
⑨ Google ブックス ⑩ CiNii (雑誌記事検索) ⑪ 「聞蔵」(朝日新聞)ほか新聞記事検索 DB

Q2 本日のガイダンスで説明した、以下の図書館の仕組みを生かした文献検索を、あなたはこれまでの授業での発表やレポート等で経験したことがありますか? 本日のガイダンスよりも前に、あなた自身が経験したことがあるものすべてに○をつけてください。(①以外は複数回答可)

- ① 大学に入学後、図書館を使って調べ物をしたことがまだない。
② テーマに関する基本的な知識を得るために、百科事典・新語辞典・専門辞典を調べたことがある。
③ OPAC を検索する際、同義語を考えて、複数のキーワードで検索をしたことがある。
④ OPAC で見つけた図書を書架から取り出すときに、隣の図書も同じ内容だと気づいて手にとったことがある。
⑤ OPAC で見つけた図書の、上位概念の分類番号の図書を調べたことがある。
⑥ OPAC で見つけた図書の、下位概念の分類番号の図書を調べたことがある。
⑦ OPAC で見つけた図書が、レポート等に使えると思った時に、その作者名で OPAC を再検索したことがある
⑧ 図書のうしろについている参考文献のリストに書かれている本を調べたことがある。
⑨ 本学図書館のリクエストサービスを利用して、レポート等に必要図書の購入を依頼したことがある。
⑩ 本学図書館のレファレンスサービスを利用して、レポート等に必要文献の調査を依頼したことがある。

Q3 大学入学後、発表の準備やレポート作成のために、あなたが参考資料として使用した文献にはどのようなものがありますか? 本日のガイダンスよりも前に、あなた自身が使用したことがある文献の種類すべてに○をつけてください。(①以外は複数回答可)

- ① 大学入学後、発表やレポートの課題をまだ経験したことがない ② 一般図書(教科書以外) ③ 雑誌論文・記事
④ 新聞記事 ⑤ インターネット上の情報 ⑥ 教科書・配布資料 ⑦ 百科事典・新語辞典・専門辞典

Q3で、②～⑦に2つ以上、○をつけた人に質問します

Q4 Q3で○をつけた文献の番号を、レポートを作成する場合に、あなたがよく使う順番に並べ替えて下さい。

<例> ①⇒⑤⇒④⇒③

⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
---	---	---	---	---	---

学籍番号	氏名
------	----

ご協力、ありがとうございました